

## 第2回大阪スーパーシティ協議会 会議要旨

- 1 日時（意見募集期間） 令和4年9月5日（月）～9月9日（金）
- 2 開催方法 書面開催
- 3 出席者
  - 吉村 洋文 大阪府知事
  - 松井 一郎 大阪市長
  - 松本 正義 公益社団法人 関西経済連合会 会長
  - 鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭
  - 生駒 京子 一般社団法人 関西経済同友会 代表幹事
  - 石毛 博行 公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 事務総長
  - 吉田 淳一 三菱地所株式会社 執行役社長（うめきた2期開発事業者 JV 代表企業）
- 4 議 題
  - 全体計画骨子（案）について
- 5 会議要旨
  - 意見等の概要は次のとおり。
  - ・ スーパーシティ構想の推進には、プレイヤーとなる経済界や民間企業のアイデアや斬新な新しい取り組みが必要である。それぞれのプロジェクトの具体化に向けて推進主体と調整を図りながら年内に全体計画を策定したい。協議会の皆様には、引き続きご協力をお願いする。
  - ・ 官民を挙げての大阪の未来社会の実現へ向けて、民間事業者による新たなプロジェクトが続々と創出されることを期待している。協議会の皆様からは、全体計画に位置付けられる具体化されたプロジェクトをご提案いただき、スーパーシティ全体計画を取りまとめてまいりたい。
  - ・ 全体計画の最終とりまとめに際しては、大阪のめざすスーパーシティ像を端的に示した上で、それに向けて夢洲とうめきたにおける先端的サービスがどのように結びつくのかのイメージが広く伝わるように表現を工夫していただきたい。
  - ・ スーパーシティは、企業が中長期の夢の実現にむけた実験を加速させるために活用されるべきものであり、「全体計画」には、企業が共感し、スーパーシティの制度を積極

的に活用したくなるような内容が盛り込まれる必要がある。

全体計画骨子(案)には、万博以降の「大阪のめざす姿」が十分に表現されていない。未来に実現すべきプロジェクトや最先端サービスを大阪で実現することが記述され、企業がスーパーシティを活用して、チャレンジングな事業に取り組み、「大阪のめざす姿」の実現に貢献しようとして想起できるようにすべきだ。

全体計画最終案をとりまとめの時点では、2025年以降も展開、発展し得るプロジェクト案を追加し、「大阪のめざす姿」を表現したい。

そのため、ヘルスケア分野とコモングラウンドについて最終案に盛り込めるプロジェクトを提示したい。今後、協議会関係者間で十分な協議を重ね、「未来を感じる」全体計画に仕立てたい。

- ・ 「大阪のスーパーシティがめざすビジョン」として、『住民 QoL の向上』と『都市競争力の強化』の2つが並んで掲げられていることが特に重要である。『住民 QoL の向上』と『都市競争力の強化』の両立を意識しつつ、全体計画、区域計画に関する検討を進めて頂きたい。
- ・ スーパーシティの実現は、「みどりとイノベーションの融合の実現」という「まちづくり方針」にも通じるものがあり、共感をしている。コロナ禍を経て、その価値が改めて見直されている屋外パブリック空間の先進事例として国内外に発信し、他都市との差別化・競争力向上に資する機会となることを期待している。

全体計画骨子(案)に記載の先端的サービスのうち、法的規制緩和を要するものは区域計画等で定められ、国とも議論が進んでいくものと認識しているが、法的規制緩和を要しないものもサービス実現のためには関係者間での前向きな協議が必要になる。

「まるごと未来都市」たる取組を日本全国全世界に発信していくためには、「ユーザー目線でのサービス提供」と「すべての関係者による持続的なビジネスモデルの構築」が不可欠であると考えている。民間主導・プレーヤー主導で市民 QoL 向上に資するような真に価値ある先端的サービスを実現するためには、国費補助金等による初期費用への補助のみならず、サービス導入後も官民共同で支える枠組みが必要である。

## 6 会議資料

- (1) 委員名簿
- (2) 全体計画骨子(案)